

令和5年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる  
「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和6年4月3日現在

研究課題名	体制転換期ユーゴスラヴィア社会におけるロマの人びとに対する認識	
申請者	氏名	所属機関・職
	山川 卓	北海道教育大学 函館校・講師

## 研究成果の概要

本研究では、新聞・雑誌などのマスメディアにおいて、ロマの人々がどのように取り上げられてきたかを「人種化」というフレームを通じて分析することで、後期ユーゴ社会においてロマの人びとに対する認識を明らかにしようとした。

*Politika, Večernji List, Danas*などの新聞や週刊誌上でのロマに関する記事は、多くが文化面や社会問題の文脈で取り上げられていた。逆に政治運動の文脈では、ロマ運動が盛んになった60年代後半から70年代にかけてもほとんど報道がなされなかった。例えば、1971年4月にロンドンで開かれた世界ロマ会議は、*Politika*誌上ではロマによる政治運動のための集まりとしてではなく、世界中から集まったロマがキャラバンを組んで歌を披露していた、というオリエンタリズム的な文化記事として報道されていた。他方で、政治的なテーマとしては、1980年代以降の人口調査におけるエギプチャニ・アイデンティティの表出がよく取り上げられていた。*Danas*などの週刊誌で、エギプチャニはコソヴォの「分離主義者」の被害者という文脈でとりあげられている。いずれも、主流社会が既定とするようなロマ・イメージと政治規範を通じて、「人種」フレームを立ち上がらせるような言説構造においてロマの人々が対象化されていたことを示すものである。

ただし、調査した資料からは、そもそもロマの人びとにかかわる記事をあまり多く発見することができず、一般化した分析結果を導き出すことは困難であった。研究課題を追究するうえで、引き続き資料収集に当たると同時に、分析対象をより広範な出版物や各種メディアにおける表象に拡大する必要もあると考える。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

・山川卓「現代クロアチアの欧州化と地域の多層性—『学級隔離』後のロマ教育政策から—」北海道教育大学函館校国際地域研究編集委員会編『国際地域研究VI』大学教育出版、2024年（6月頃刊行予定、謝辞無）

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

・門間卓也（研究代表者）、山川卓、宇野真佑子「ポスト・ユーゴスラヴィアにおける戦争経験を踏まえた「民族共存」モデル再考」公益財団法人 大幸財団人文・社会科学系学術研究助成（共同研究者）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。